

Kontyû, 1973, 41 (2): 238-240.

日本産コメツキムシ科の知見 (XV)

大平仁夫

愛知教育大学教育学部

[HITOO ÔHIRA. Notes on some elaterid beetles from Japan (XV)]

Ampedus (Ampedus) rubridorsus (Lewis, 1879) ツシマアカコメツキについて
(第1図, A, B, C)*Elater rubridorsus* Lewis, 1879, Ent. Monthl. Mag. 16: 155 [Tsu-shima].

G. Lewis は 1879 年に, Taisho¹⁾ という場所において得られた採集者不明の標本にもとづいて, 2 種のコメツキムシの新種を発表した. そのうちの 1 種は *Elater Ryei* (= *Ampedus ryei*) という種であるが, 他の 1 種は上記のツシマアカコメツキである. しかし, G. Lewis は 1894 年に, *Elater Ryei* の産地は対島ではなく, Tangiers (北アフリカのモロッコ?) であったとして日本の fauna から除外したが, 同時に同場所から記載した *rubridorsus* については何もふれていないので, 今日でも対島産の種として扱われている. 本種は, 唯 1 頭の標本にもとづいて記載されたが, 原記載から今日まで対島から本種を再び採集したものはなく, その正体についても全く報告がなされていない. 最近になって, 岸井(1961)は対島産のコメツキムシについて検討を加えたが, 本種についての新知見はなく, 原記載を引用しているのみである.

本種のもとの原記載はきわめて簡単で “*Ater, nitidus, fusco-pubescent, capite prothoraceque crebre fortiterque punctatis, illo in medio foveolato, leviter impresso; elytris sanguineis, minus profunde striatis, striis punctatis. Long. 5 lin.*” というものである. 筆者は British Museum (Natural History) に保管されている本種の holotype 標本を借用, その実体について詳しく調べることができた.

本種は, 図示 (第 1 図, A) したような外形を有し, 触角は両方とも第 4 節から破損して消失している. 体長は 10.5 mm, 体巾は約 3 mm. 体は比較的巾広く, 背面は膨隆する. 頭部, 前胸背板, 小楯板, それに体腹面は黒色で, 翅鞘は赤褐色 (やや朱色に近い) である. 脚は黒褐色であるが, 跗節はやや褐色である. 体表面は光沢を有し, 頭部と前胸背板上には, 黒色と褐色の毛を混生するが, 小楯板と翅鞘は黒色の毛を生じ, 体下面は一樣に黄褐色毛を生ずる. 頭部は全面に粗雑な点刻を密に生じ, 頭頂部に 1 個の浅い円形の凹陷部を有する. 前頭横隆線は弧状で, 前縁中央部は巾広く抑圧される. 触角の第 2 節は短小で巾よりわずかに長く, 第 3 節は倒円錐状で第 2 節の約 2 倍の長さである. 前胸背板は長さより巾広く, 両側は後縁角のやや前方で弱く内方に弯曲し, 中央やや後方部において最も巾広い. 背面は強く膨隆し, 全面にやや大型の点刻を密に生ずるが, 側縁部はとくに密で粗雑である. 小楯板は巾より長く, 矩形状で, 表面には小点刻を密に生ずる. 翅鞘の條線は深く印し, 間室は小点刻をまばらに生じ弱い横シワ状である.

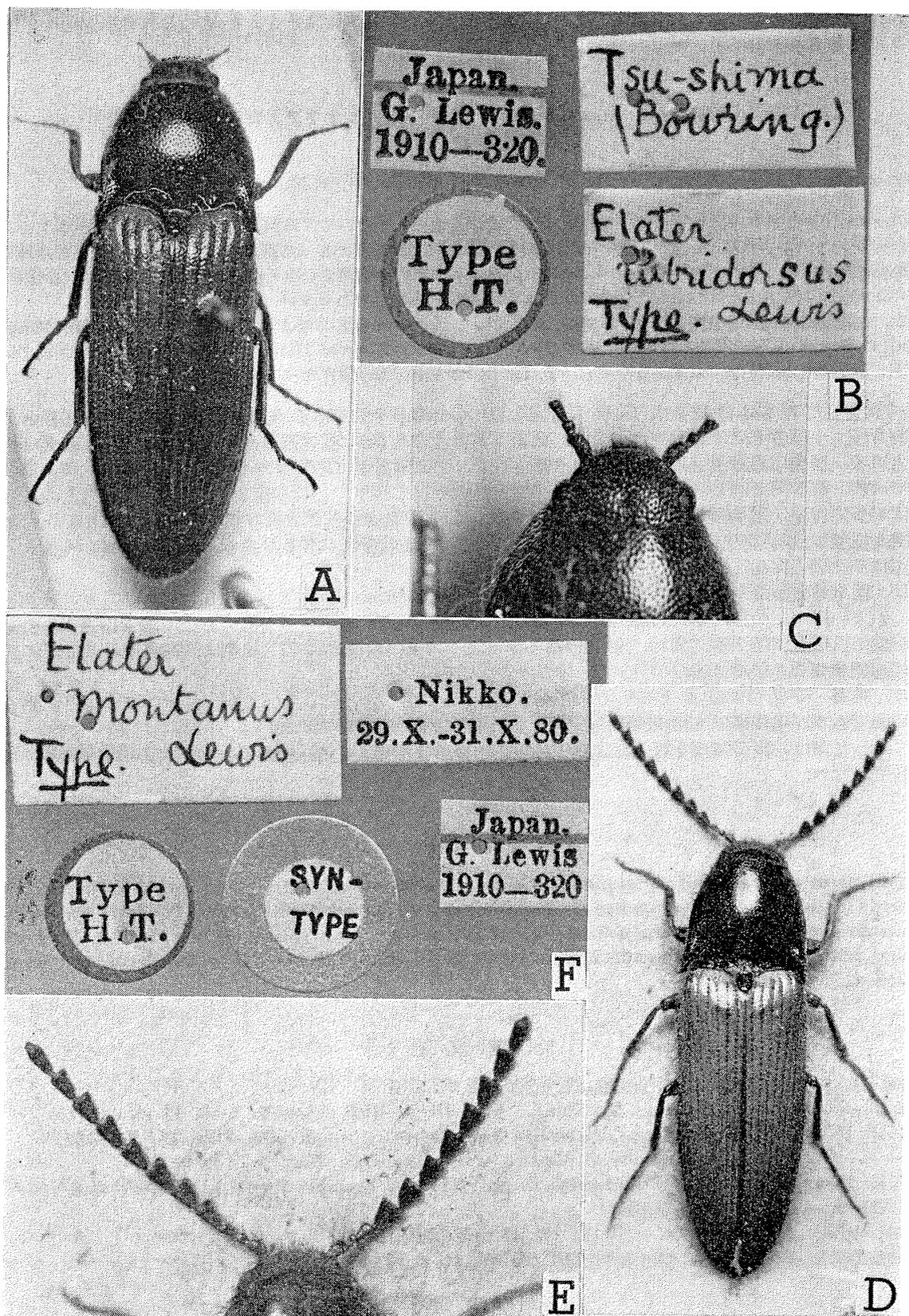
本種の一般外形は, 北海道, 本州の中部以北に分布する *Ampedus (Ampedus) ainu* (Lewis, 1894) アイヌアカコメツキによく似ているが, *rubridorsus* の方は, 頭部や前胸背板上の点刻が著しく密で粗大である. また, 小楯板は矩形状をしており, 触角の第 2 節が短小で球形状である. その他, 翅鞘がより濃赤褐色をしているなどによって容易に識別することができる.

本種に付されてあったラベル類は図示 (第 1 図, B) したようなもので, 原記載にみられる Taisho という文字は見出すことができなかつた. また, Tsu-shima と手書きされている下段に (Bowring) と書かれてあるのは, 中根猛彦博士の御教示によれば, 採集者か標本提供者の人名であるらしい.

これで, 本種の実体については大体明らかになったが, 本種が確実に対島産であるのかどうかについては, まだ若干の疑問で残されているように思われる. それは, 原記載以後まだ本種を採集した記録が対島およびその周辺の地域から全くないこと, 1879 年の G. Lewis の論文の中で記載した一連のコメツキムシについては, 直接または間接的に 1894 年の同氏の論文の中で再びとりあげて検討しているのに, *rubridorsus* については最終頁の種のリストの中に記されているのみであること, また産地が誤りであった *Ryei* と同じ場所から同時に記載していること, その他, 触角の第 2, 3 節, 小楯板や前胸背板の形態などは, 従来から日本に知られてい本属の種とはやや異質と思われる点がみられることなどである.

筆者は, 本種はもしかしたら *Ryei* と同じように対島産ではないのではないかという疑問を持っているのであるが, これらの問題については, 今後さらに詳しく対島のコメツキムシ相を究明して行く段階において次第に

1) 中根猛彦博士の御教示によれば, Taisho は Tai-shû = 対州 = 対馬のことであるという.



第1図. A, B, C, ツシマアカコメツキの完模式標本とラベル [Holotype of *Ampedus (Ampedus) rubridorsus* (Lewis, 1879), deposited in the collection of the British Museum (Natural History), and the labels]; D, E, F, ミヤマアカコメツキの完模式標本とラベル [Holotype of *Ampedus (Ampedus) montanus* (Lewis, 1894), male, deposited in the collection of the British Museum (Natural History), and the labels].

明らかになるものと思われる。いずれにしても、本種を対島から再び発見することが、これらの問題を解決することになると思う。

Ampedus (Ampedus) montanus (Lewis, 1894) ミヤマアカコメツキについて
(第1図, D, E, F)

Elater montanus Lewis, 1894, Ann. Mag. Nat. Hist. [6] 13: 36 [Nikko].

G. Lewisは、1881年8月に日光において採集した6頭の標本にもとづいて、1894年に上記の新種の記載をした。その後、本種については、神谷・安立(1933)、三輪(1934)、横山(1936)などによって図示されているし、他にも本種についての採集記録が若干なされているが、G. Lewisの採集になる標本を直接示した三輪(1934)のモノグラフを除いて、果して本種を正しく図示または記録しているのかどうか疑問に思われるものも多い。

筆者は、本種の正確な形態を知るため、Hayek氏によって holotype とみなされている標本を、British Museum (Natural History) から借用して調べた。現在 British Museum (Natural History) には2頭しか保管されていないそうで、三輪(1934)が扱った標本を含めても、まだ若干の個体が行方不明になっていることになる。

筆者が調査した標本は雄個体で、図示(第1図, D)したのがそれである。体長は9mmでやや細長い。頭部、前胸背板、小楯板それに体下面は黒色で、翅鞘は黄褐色であるが、翅端部はやや黒色である。体表面は黒色の毛を生ずる。触角は黒褐色(基部3節はやや褐色)で、脚は暗褐色(跗節はやや褐色)である。触角の第2節は短小で球状、第3節は第2節の約2倍の長さで倒円錐状をしており、これら第2、3節を合わせたものは第4節とはほぼ等長である。前胸背板は長さよりわずかに巾広く、両側は中央やや後方部において最も巾広い。また、背面は弱く膨隆し、小点刻をまばらに一様に分布する。小楯板は矩形状で巾より長く、末端部は弱く円まる。翅鞘の條線はやや弱く印し、間室は弱い横シワ状である。

本種は、関東地方から知られている *Ampedus (Ampedus) chlamydatus* (Lewis, 1894) ホソアカコメツキに最もよく似ている。しかし、*montanus* の前胸背板はより扁平で、中央やや後方部において最も巾広く、表面の点刻も小型でまばらに印する。また、触角の第3節はより細長い倒円錐状で、翅鞘は黄褐色であるなどによって容易に識別することができる。

本種は、神谷・安立(1933)によると「本州の比較的山地に多し」と記しているが、筆者が調査した範囲では、山地性の種であるが山岳帯でも比較的珍らしく、どこでも採集できる種ではないように思われる。なお、大平(1971)に示した図は、真の本種を扱ったものではない。分布は本州、北海道であるが、北海道の標本は筆者はまだ確認していない。

Summary

This paper is a result of my studies on the two *Ampedus*-species, *Ampedus (Ampedus) rubridorsus* (Lewis, 1879) and *Ampedus (Ampedus) montanus* (Lewis, 1894), both from Japan. The type-specimens were made available through the courtesy of Miss Crystine Von Hayek of the British Museum (Natural History). Having examined them I can found many characters which have not been mentioned.

引用文献

- 神谷一男・安立綱光. 1933. 原色甲虫図譜(三省堂): pl. 25, f. 6.
 Kishii, T. 1961. Elateridae of Is. Tsushima. *Bull. Heian High School* 5: 1-56, 11 pls.
 Lewis, G. 1879. Diagnoses of new Elateridae from Japan. *Ent. Monthl. Mag.* 16: 155-157.
 ————. 1894. On the Elateridae of Japan. *Ann. Mag. Nat. Hist.* [6] 13: 26-48.
 Miwa, Y. 1934. The Fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Dep. Agr., Gov. Res. Inst. Formosa 65: 1-289, 9 pls.
 大平仁夫. 1971. 日本のコメツキムシ(VIII). *昆虫と自然* 6(4): 21-27.
 横山桐郎. 1936. 続日本の甲虫(西ヶ原刊行会): 86, pl. 11, f. 9.